

## 環境を活かし生活を守るための農業は、 田舎暮らしの方法としての農業でもある

窪川の駅から興津の方へ向かって車で10分程行った東又地区にメタセコイヤの並木があり、そこを入れて行く「窪川アグリ体験塾」※1があります。平成15年3月、社会人を対象とした高知県立農業大学の研修科としてスタート、今年度からは環境保全型畑作振興センターと統合され、高知県立農業担い手育成センターの農業体験・研修施設です。

広い敷地には露地圃場、施設園芸のハウスはもちろん、研修室や食堂、宿泊施設もあり、短期では農業機械の研修、家庭菜園を始めたばかりの人、就農直後の人などを対象とした農業基礎講座などが開講されています。長期では高知県での就農希望者を対象として6ヶ月／12ヶ月／24ヶ月、本格的に農業技術を学ぶことができます。

若い世代を中心に、地方移住がブームとも言われるようになり、確かにIターンUターン移住者は増加しています。それでも一番大きなハードルとなるのは仕事。都市ではなく地方でこそその仕事といえば筆頭が農業※2であり、食への関心の高まりから家庭菜園や有機農業も注目を集めているところです。どこで暮らし何を食べるのか、生活環境や働き方をふくめてライフスタイル全体を見直した時に、地方＋自然環境＋食べ物＋仕事＝「農業」は自然に導きだされる答えと言ってもいいのではないのでしょうか。

過疎高齢化が進み自然環境の豊かな高知県は、早くから移住促進※3、新規就農支援に力を入れています。移住・就農希望者を対象に、農業への入門～準備段階として高知／大阪／東京／名古屋の各会場で働きながら就農基礎知識を学ぶ「こうちアグリスクール」や、インターネットで1年をかけ農業知識を学ぶ「新しいかビジネススクール」というプログ

ラムが用意されていて、アグリ体験塾はそのスクーリングの場にもなっています。平成24年からは農林水産省の青年就農支援の給付金制度などもあり、年齢制限や各種条件等がありますが、新規就農には追い風が吹いています。研修生は栽培技術や農業経営の勉強はもちろん、農地や家探し、作付け計画、施設や資金まで含め就農まで各方面からトータルにサポートがあり、さらに就農後もやってみてはじめて出てくる疑問や課題について、あらためて学ぶ場もある。体制はすでにしっかりと整えられているのです。

2月半ば、金～日曜の2泊3日で「こうちアグリスクール」のスクーリングが開催されていたのでちょっと内容を紹介させていただきます。

参加者は18名。初日のプログラムはオリエンテーションの後二手に別れて、農作業安全の講習を受講し機械操作の実習／長期実習生が管理しているハウスを見学。ナスをはじめ施設栽培作物の管理について説明を聞くためいくつものハウスに出入りするのですが、外が寒いのでその度、しあわせ～、いい職場～、などの声も。15時からは新規就農者の先輩として、大豊町の標高の高い地域でミニトマト「アイコ」を夏～秋作で有機栽培し、県



内のスーパーマーケットに直接販売している、有機のがっこう土佐自然塾※4の卒業生4軒のグループ「山とまとの会」から、宇藤 誠朗さんが事例紹介として～  
○一般的なトマト栽培は秋～翌年初夏、夏～秋には高冷地か北海道でないと栽培できず全国的に品薄なところを狙っている○栽培方法は試行錯誤を続けて毎年進化○グループ内で品質を保つためお互いチェック○4軒とも有機 JAS 認証を取得○注文に対して出荷量をグループ内で割り振りメーリングリストで連絡○交代で集荷～納品、会計は担当を決めて管理等～のプレゼンテーション。  
続いて山とまとの会を代表し、就農して8年目になる間浩二さんは、「規模は小さくても就農は起業、社長として経営戦略が必要。なにを作ってどこにいくらでどう売るか、作業量、面積、単価など、どういう生活がしたいのかというところから逆算してみたらいい。実際にやってみないとわからないとこばかりだとは思いますが、やりがいはあるし、相談する先も沢山ある。農業という道と一緒にやっていきましょう。」とエールを送りました。四万十市役所の農政課からは四万十市で就農※5を考えた場合の農地の紹介など就農支援のとりくみについての説明、夕食をかねた交流会ではスクーリング生と長期実習生、先輩新規就農者や就農支援担当職員、農業関係者といろいろな立場の人が揃い、就農、移住、栽培技術や経済的な話、疑問や不安を具体的に直接聞けるというのもそうそうある機会でなく、ここぞとばかりそれぞれが栽

培のこと、地域の付き合い、資金繰りといった話題で遅くまで話していました。

二日目以降もバスで南国市、安芸市の農家や JA、新規就農者を訪ね、圃場や出荷場の見学、それぞれの取り組みや経験談など盛りだくさん。後日、参加者から聞いた感想でも「やはり考えていただけの頃と、少し見学、体験しただけという程度でも全く違う、具体的に何をしたいのか、したらいいのか、なにが難しそうなのかが見えてきた。困った時話が聞ける人にも会って、ちゃんと実現するための準備段階に入れた気がする。」とのこと。

実はこの場所、もとは県立農業大学校窪川校地、(現在県立農大はいの町の本校+佐川分室)さらに遡ると昭和初期から昭和63年までは高知県立帰全農場(旧帰全農場跡地、五角形屋根の牛舎、同窓会館、体育館ともに平成26年度末で解体)と、長らく高知県の農業を担う人材が育てられて来た所、これまでもこれからもという伝統の地です。今、次世代施設園芸団地として元農大グラウンドと実証圃場をあわせた広大な面積にオランダ式軒高の立派なハウスの建築が進められています。研修生や、スクーリング参加者の中には、ここで働くことになる人もいるのかもしれない。

さて、新規就農までは考えられない、他の仕事+家庭菜園で移住、定年後の畑付き田舎暮らし希望という方にも良いお知らせがあります。アグリ塾の隣の敷地には、平成22年開設の市民農園「クラインガルテン四万十」※6があります。それぞれ50㎡の畑に、宿泊施設(木造、キッチン・バス・トイレ・冷暖房・ロフトつき)の滞在型(22区画)年額370,280円～/日帰り型(16区画)年額12,340円～があります。管理棟に管理人常駐、談話室・農機具庫・共同トイレ・シャワーあり。もちろん駐車場、休憩所、手洗場、クワ洗場、イベント広場。1年づつ更新で最大3～5年間利用できます。お試し田舎暮らしや、都市と田舎の往復、ここを拠点に家や畑を探すもよし。それぞれのペースでできる移住の方法、いろいろあります。そろそろ・・・いかがですか? (多田さやか)



研修室で、新規就農8年目のトマト農家、大豊町の間さん。

※1 窪川アグリ体験塾

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2011>

※2 こうち農業ネット

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/>

※3 高知家で暮らす。(高知県の移住促進サイト)

<http://www.pref.kochi.lg.jp/~chiiki/iju/index.shtml>

※4 有機のがっこう土佐自然塾

<http://www.tosa-yuki.com/>

※5 四万十市で新規就農を!パンフレット

<http://www.city.shimanto.lg.jp/gyosei/nousui/syuunou.html>

※6 四万十市滞在型市民農園クラインガルテン

<http://www.town.shimanto.lg.jp/life/detail.php?hdnKey=715>

※6 クラインガルテン スタッフ ブログ

<http://kg-shimanto.jugem.jp/>

※ 高知県野菜が買える、園芸連の龍馬マルシェ

<http://ryoma-marche.jp/>